大　使　館　情　報

2021 年４月

【目次】

１．ブラジル・マクロ経済情勢
（１）経済情勢
（２）経済政策
（３）中銀の金融政策等
（４）為替市場
（５）株式市場
２．ブラジル政治情勢
［内政］
（１）新型コロナウイルス感染症関連
（２）ルーラ元大統領に対する有罪判決の無効化決定
（３）ボルソナーロ政権の支持率
（４）閣僚の交代
［外交］
（１）アラウージョ外務大臣（当時）による対外政策の総括
（２）アラウージョ外務大臣（当時）のイスラエル訪問
（３）伯産アルミニウムの対米輸出に係る補助金に関する調査の終了
（４）伯米間の環境協力協定に向けた会合の実施
（５）アセベド・パラグアイ外務大臣の訪伯
（６）ボルソナーロ大統領によるメルコスール首脳会合への出席
３．トピックス
（１）AI に関するウェビナーの実施
（２）令和元年度草の根・人間の安全保障無償資金協力の報告式（在サンパウロ総）
（３）伯日議連及びブラジル日本商工会議所とのブラジル税制の課題に係る意見交換会
（４）ブラジル日本研究国際学会への出席
（５）日本の新型コロナウイルス対策広報動画発信（在リオデジャネイロ総）
４．大使館からのお知らせ
（１）文化イベント
（２）外務省海外安全ホームページ
（３）ブラジル渡航情報

１．ブラジル・マクロ経済情勢

（１）　経済情勢（３月発表の経済指標）

（ア）伯中央銀行が週次で発表しているエコノミスト等への調査（Focus 調査）に関して、３月 26 日時点で、GDP 成長率予測については、2021 年は 3.18%で前週より 0.04%減少し、2022 年は 2.34%で先週より 0.05%減少した。インフレ率については、2021 年は 4.81%で前週から 0.1%上昇、2022 年は 3.51%で前週と変わらず。

（イ）１月の鉱工業生産指数は、前月比+0.4%で９カ月連続の増加を記録。前年同月比も+2.0%を記録した。

（ウ）１月の小売売上高は前月比▲0.2%、前年同月比▲0.3%を記録した。

（エ）全国の失業率（2020 年 11 月～2021 年１月）は 14.2%となり、８～10 月の移動平均 14.3%より 0.1%改善。前年同期比（2020 年 11～2021 年１月）で 3.0%上昇した。

（オ）２月の拡大消費者物価指数（IPCA）は 0.86%となり、前月の 0.25%から 0.61%増加。直近 12 カ月累計は 5.20%となった。

（カ）2021 年２月の貿易収支は 11.5 億ドルの黒字。2021 年１～２月の累計は 1.66 億ドルの黒字。

（２）経済政策等

（ア）2020 年の GDP 成長率（四半期累積）は▲4.1%となり、1996 年以降最低の成長率を記録した。伯経済省は 2021 年の GDP 成長率は+3.2%、2022 年は +2.5％と予測。

（イ）2020 年に引き続き、低所得層に対する緊急給付金を認める法律が議会で承認された。基本支給額は 250 レアル／回で４月から４回にわたり支給される予定。

（ウ）2021 年連邦政府予算が３月 25 日に議会で承認され、３月 26 日にボルソナーロ大統領に裁可された。その後、義務的歳出総額が歳出上限を上回ることが判明し、政府・議会間で調整が行われている。

（３）金融政策

３月 17 日、伯中央銀行金融政策委員会（Copom）は、政策金利（Selic）を年率 2.0%から 2.75%へ引き上げることで全会一致した。政策金利引き上げは 2015 年７月以来、約５年半ぶりとなる。次回金融政策委員会は５月４日及び５日。

（４）為替市場

（ア）３月の為替市場は 5.47～5.88 レアル/ドルで推移。

（イ）月の前半は 5.53～5.87 レアル／ドルで推移。ルーラ元大統領の第一審の裁判官権限を最高裁が否定したことを嫌気しレアル安へ進むも、緊急憲法修正案の承認及び税制改革の進展期待を受けてレアルが買い戻された。

（ウ）月の後半は 5.49～5.78 レアル／ドルで推移。新型コロナウイルス対策による経済活動停滞等を懸念しレアル安が進むも、米国大統領のインフラ投資発言を好感し、レアルが買い戻された。

（５）株式市場

（ア）３月の株式市場は 110,334～116,633 ポイントで推移。

（イ）月の前半はルーラ元大統領の大統領選出馬の可能性、保健大臣の交代等の内政要因や米国の追加経済政策等外部要因で上げ下げを繰り返す展開。

（ウ）月の後半は国内でのワクチン接種の遅延や更なる財政支出の可能性等を嫌気し、112,000 ポイント台まで値を下げたが、それ以降は中国景気への期待や米国のインフラ投資への期待から 116,000 ポイント台まで上昇した。